

時代遅れのオール与党市政

「脱ムダ」で暮らし・福祉応援の政治をすすめる地方自治体が次々誕生。いま全国で新しい地方政治の流れが広がっています。大型開発優先で市長のすすめる悪政に「なんでも賛成」、市民の声を聞かない「オール与党」市政を、いつまでも続けていいのでしょうか。

共同の輪をさらに広げて

みなさんと日本共産党が力をあわせて、敬老乗車証の有料化ストップをはじめ、35人学級や障害児学級の大幅増設、子どもの医療費助成の拡大、借換融資制度などを実現。鴨川ダムやフランス橋計画をストップさせてきました。

日本共産党は、今の市政を「なんとかしなければ」と考えておられるみなさんと思いをついに、立場の違いをこえ新しい共同の輪を広げてがんばります。



みなさんと力をあわせて、市政を動かしてきました。今度こそ、市民の力で新しい市長をしくりましょ。

次々と不正・腐敗が明らかになっています



一部の人たちがばかりに目をむけてきた市政のもとで

長く続いてきた不正な同和行政のもと、公金の不正支出や公務員の職場では考えられないような不祥事や不正事件が相次いでいます。



不正支出を報道するマスコミ各紙

5年間で約8,000万円 同和補助金の不正支出

同和对策事業補助金で、新たに4,300万円の不正支出が明らかに。3月に判明した約3,700万円の不正支出とあわせると97年度から01年度の5年間で118件、約8,000万円の公金が不正に使われていたことになります。

今の市長は、こんな同和行政をすすめてきた中心幹部。その責任はきわめて重大です。

ポンポン山買収訴訟 26億円の返還命令

ポンポン山買収事件では、市の買収価格が通例の倍以上にふくれあがっていたことが明らかになり、裁判所が前市長に26億円の返還命令を出しました。

ここでも、大型開発中心の市政への審判が下されたといえます。

この流れに京都市は逆行していませんか

大型開発優先 見直しは全国の大きな流れです



京都駅ビルや一条山開発など、乱開発やまちこわしをすすめてきた京都市。二条駅前再開発では拠点テナントの誘致に3度も失敗。単年度貸付金も含めて毎年40億円近くも税金をつぎこむ御池地下街整備など、大型開発事業は惨たんたる状況です。

ムダと環境破壊の 市内高速道路



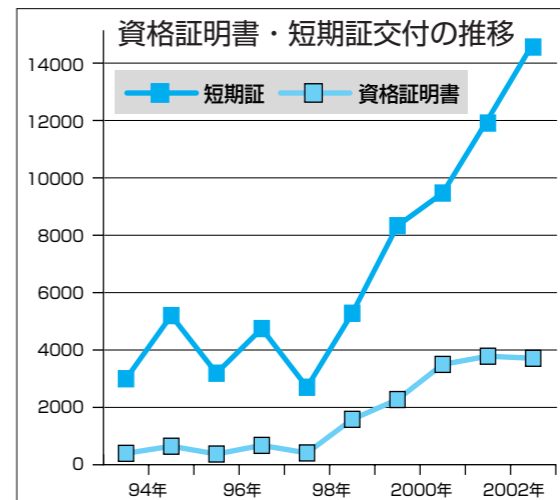
1本1億円以上の橋脚がならぶ油小路

前回市長選挙時、市長陣営は「市の負担は90億円だけ」とデタラメな宣伝。5路線の計画のうち現在すすめられている油小路線と新十条通の2路線だけでも、出資金だけで102億円に膨張、関連事業をあわせると384億円もの税金が投入されようとしています。

京都市の借金は1兆円をこえ、借金がえしの公債費の割合は一般会計の15%を突破しようとしています。このままでは「活力」どころか、京都のまちも京都市財政も破綻の道です。

市民一人ひとりが大切にされているでしょうか

急増する国保証の「取り上げ」

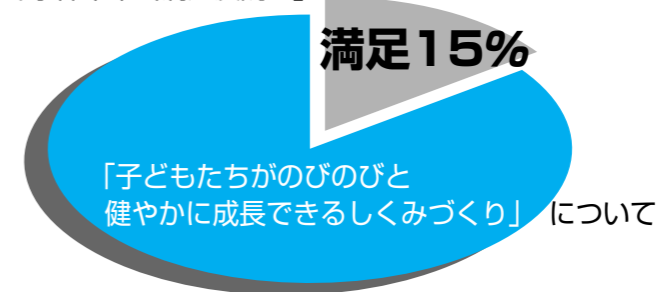


市内の事業所の減少率は全国最大。医療費の3割負担にくわえ、京都市の介護保険料は政令市で2番目の高さ。国民健康保険証の『取り上げ』も、いまの市長のもとで急増しています。

全国に例のない 障害児に冷蔵給食

子育てや教育の願いは、京都市の「市民満足度調査」でも、48%が不満感（満足は15%）を表明しています。障害児にとってかけがえのない養護学校の給食を安上がりな民間委託の「冷蔵」食に切りかえる方針に全国から怒りの声が上がっています。また、西京高校の整備には99億円もかけるなど一部の特別校には多額のお金を投入しながら、多くの学校の施設改善は遅れたままです。

「京都市市民満足度調査」



京都のまちと市民の暮らしは「元気」になったのでしょうか

いまの市長が「活力」「元気」とさげび続けて八年